

平成22年度 第6回がまごおり協働まちづくり会議 会議録

日 時 平成23年 1月11日 (火)

15時00分～

場 所 蒲郡市役所 新館5階 庁議室

参加者：和泉会長、金子副会長、山本喜是委員、山本久代委員、小林委員、
尾崎委員、小田泰久委員 榎本亮委員

欠席者：水野委員

(事務局) 竹内、酒井、小山、石川、森、

(オブザーバー) 山本

1 開会

2 議題

(事務局)

1) 助成金について

はじめの一步部門で、総額100万円の募集があるが、前期後期どのような配分にしたらよいか？助成金申請の記入例を作ったがこのようなものでよいか確認してほしい。

(会長)

前期部門だけで100万円を使い切ってしまう可能性や、後期に助成金を残すために審査の基準を前期後期で変えなければならないがそれでいいのか？

(副会長)

昨年度は1回目の募集で限度額の50万になってしまった。その後、3団体ほどから、まだあるのかと聞かれたので、そのような団体のためにも後期を残してほしい。

(委員)

先着にして、間に合わなかった団体は来年度優先で助成をしたらよいと思う。

(委員)

前期50万後期50万で良いと思う。後期余れば、基金として積み立てればよい

(委員)

助成金は良い事業に支払うものなので、前期後期同じ金額にしなくてもよいが、後期には残しておくべきだと思う。市民活動団体は新年度になり活動していくなかで、これは地域に必要な事業だと思うことがしばしばあるので後期にチャンスを残しておいてほしい。

(委員)

はじめの一步部門が毎年行うということが定例化すれば、後期があっても申請が半

年の違いなので、前期で終りでもよいのではないのか？

(会長)

後期50万円を予定と公表しているのである程度守らなければならないのではないのか。応募状況を見てから決めても遅くないのではないのか。説明会や相談の時に後期もあるとしっかりと告知する必要があると思う

(副会長)

イメージとしては後期に3割くらい残すくらいでよいのか

(会長)

3割くらいですね。他の方のご意見は？

(委員)

前期に申請をした方が落ちた時に、後期にリベンジできるようにしたほうが良いと思う。

(委員)

後期にも残した方が良いと思う。

(委員)

応募に間に合わなかった人もいるので後期に残した方が良いと思う。

(委員)

50万、50万として余れば基金として積み立てればよいと思う。

(会長)

応募状況を見て金額を決めるが後期には必ず残しておくでよろしいか？

(事務局)

目安としては前期で基準点を超えた場合7割くらいでよいのか

(会長)

その段階で議論して決めるようにする。

記入例についてはどうか？私は小山さんが作られた記入例が良いと思う。応募者の中から選ぶとなると承知しない人がいるのではないか

(事務局)

申込書の中に申請書、関係書類は原則公開することを承諾すると記入があるので、公開については問題ない。他の団体がどう書いているのか千差万別であるのでweb上で個人情報を除く部分を公表してもよいと思う

(会長)

それならば、わざわざ記入例をつくらなくてもよいが、せっかく作ったので、記入例も公表し、センターで過去の申請書が閲覧できるというのはどうか？

(委員)

さきほどWeb上で載せるかどうかと言っていたが、web上で載せるのと、書類を公

表するとは捉え方が違うと思う。同じ公開でも世代によっても異なる。Web 上で公表するとなると、これから電子媒体で提出になってしまう

(事務局)

PDF 化すればスキャナーでよみとれる。

(会長)

Web 上では記入例をあげておいて、過去のは市役所やセンターで見ることができるとするということでどうか

(委員)

尾崎委員の意見でいいと思う。見たかったら、来てもらえば良い。

(委員)

Web 上に載せるとはじめに断りがあればよいと思う。そのために、様式を整えなければならない。若い人だと、web 上で出したいと思う人がいるかもしれない

(委員)

税金を使っているのに、多くの人に知ってもらいたいが、ネット上では見る対象者が選べないのが難点だ。もし公開できるのであれば、他市町村のまちづくりや協働にがんばっている人の参考になるかもしれない。

(委員)

時間がない人にはweb 上で見ることができれば便利だと思うが、書き方は記入例を見れば分かるので、後は足を運んでもらえば良いと思う

(副会長)

申請を出しやすいのはweb 上で載らない方で、初めの一步部門に申請する方のハードルを上げかねないと思う。

(会長)

それでは、web 上には記入例。過去の申請書はまちづくりセンターで見ることができると記載。そして今後電子申請を視野に入れて、進めていくことにする

2) NPOと行政のマッチングについて

(事務局)

NPOと行政のマッチング、ほとぼしる総合計画の簡易報告

(会長)

今年度内に参加者が再び会える機会をつくるということだが、今回は時間が短すぎたというアンケートがありましたので、ゆっくり情報を交換できるように開けるようにすすめてほしい

3) 食育プロジェクトについて

(委員)

食育プロジェクトの今の状況について

おやつサポート事業で保育園を回っていると、来年度もつづけてほしいという意見があるので、食育プロジェクトに携わった方の意見を伝える報告会ができればうれしいと思う。

(事務局)

食育プロジェクトの過去のまとめについて

2月に食育プロジェクト推進会議の全体会議を行う予定で、3月のまちづくり会議にその報告書を出せばよいと思う

(会長)

報告書では協働の観点から、提案型事業をする場合、行政、NPO、ボランティアグループのどれかにウェイトがかかってしまう可能性があるので検証をしてほしい。

山本さんは今後食育プロジェクトの3本柱のうち開発事業を主体と考えているのか

(委員)

欲を言えば全てだがおやつサポート事業についてはボランティアグループの方がやる気になっていると聞いている

(委員)

食生活改善協会の活動場所として保育園もありかなと考えているが、個人の意見としては来年度以降、大塚地区での活動は継続可能と思っている。

(委員)

モデル園が2園だけなので、他の園に広めるために

今後は保育園の父兄や祖父母にお願いができるようになれば継続性ができるのではと考えている

情報提供事業について、冊子を作っても、数年たつと過去のものになる。おやつのレシピにしても今回の7品目ではおやつの提供回数と合わない。

(会長)

協働は現場だけではなく、内部とつながりがあるとこと関係づけていくシステムを作らないと、動かないと思う。そのシステムを作るためにもう1年間モデル事業をする。今度は予算獲得に向けてどう行政と、ボランティアグループがタイアップできるのかに焦点をしてモデル事業にできないのか？

(事務局)

協働のまちづくりでは主体を持って最後まで責任を持つというのが本来で、それに行政が支援をするというのが美しい姿だと思う。それに向けていけるようなモデル事業提案型事業ができればよいと思う。

(会長)

ならば自立するためにモデル事業として1年行い、その成果を今後の提案型事業に結びつけるということで支援事業として続けることはできないか？

(事務局)

それは構わない

(会長)

モデル事業を続けるということによろしいか

(一同)

はい

4 その他

(事務局)

MINTOのお金が本年度5百万円入ってきてファンドを作り、使い方を広く募集をするということ、今年度末、新年度末にその展開のしかけを動き出す予定である

次回開催 3月17日15時～